

昭和 59 年 10 月、群馬製作所から最寄家電商品群を事業移管して、三菱電機ホーム機器(株)が発足した。初代社長には当時三菱電機(株)の取締役だった神谷さんが就任された。その神谷さんの訃報を聞いて、会社発足当時の思い出が走馬灯のように駆け巡った。

▼ 発足当時の社員は、プロパー社員、出向者、新入社員、パート・アルバイト、派遣社員等の混在チームで、その融和のためにいろいろな行事が行われた。最初に実施されたのが運動会。狭い空き地で酒を酌み交わしながらのどんちゃん騒ぎ。まるで青空宴会。その後もバスやお座敷列車を連ねての親睦旅行が続いた。▼ ユニフォームがなかなか決まらなかった。社長がなぜか三菱マークの色にもこだわり、スリーダイヤの赤を「金色」にした。まるで「三菱警備保障」のようなユニフォームだった。▼ 工場内に畳敷きの「お座敷休憩所」を作った。休憩時間に宴会でも始まりそうな家庭的で和やかな雰囲気だった。▼ 会社の行事には普通紅白の幕が張られるが、なぜか七色の虹をデザインした独自の幕を作りそれが張られた。とにかく派手だった。この幕もデザインがなかなか決まらず苦勞した。▼ 毎朝始業のベルが鳴ると、職場のあちこちから唱和の声が響く。「集合、気を付け、番号 1・2・3・・・、直ちに行動しよう、絶え間なくお客様と接触しよう、職場に和気をそだてよう」みんな直立不動で大声を出した。正直苦痛だった。・・・思い出すときりが無い。

あれから 36 年になるが、不思議と当時のことは克明に覚えている。それだけ神谷さんの印象は強かった。いろいろ勉強にもなった。なにしろやることなすことすべてが独創的でユニーク、こだわりも強かった。その強力なリーダーシップの結果、発足時の混成チームは、ほどなく【ワンチーム】にまとまり、その後の成長につながっていった。神谷さん無くして今のホーム機器の姿はない、といっても過言ではないと思う。

90 歳半ば、天命を全うしての大往生とはいえ、会社の基礎を築かれた恩人を失ったことは、非常に寂しい、淋しい。そういえば、以前菱花会での挨拶だったと思うが、「今、90 歳を超えた人の亡くなる平均が 94 歳。わしはそれまで元気に総会に参加するつもりだ・・・」ということをお話しておられた。奇しくもその通りになった。菱の実会総会には令和元年まで、毎年欠かさず遠路はるばる元気に参加され、我々にその元気を分け与えてくれていた。

ふと乾燥機、石油ファンヒーター、オーブンレンジなど、幾多の新商品を生み出した、類い稀な豊かな発想力と技術力。厳しさの中にも優しさあふれる強力なリーダーシップ。そして人を引き付けるあの説得力ある「神谷節」・・・思い出は尽きない。

さようなら、神谷さん！ 有難うございました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(2021/03/10)

---

神谷さんは、昭和 62 年(1987 年)三菱電機常務取締役・商品事業本部長として本社に戻り、その後専務取締役となり、平成 5 年(1993 年)三菱電機を退職されました。

湘南工科大学、和田精二教授の論文「家電製品の製品企画に関する事例研究」の中に、神谷さんの功績等についての調査、考察が記載されています。(菱花会会員の方から教えて頂きました) 参考までにその部分を次に抜粋させて頂きましたので、神谷さんを偲び、その幾多の業績、功績等を振り返って頂ければと思います。

<http://www.hishinomi-gunma.sakura.ne.jp/~hishimig/kamiya-kousatu.pdf>